

# 長野県佐久市地域おこし協力隊 活動報告書

時：2016年4月～2019年3月

場：長野県佐久市浅科地区（旧浅科村）

事：伝統的地場産業の担い手の育成等

金子 久登己

## 「伝統的地場産業の担い手の育成等」

## ■協力隊導入概要

地域再生施設で指定管理を受けている農事組合法人「矢島いきいき会」の活動が難しくなり、伝統的地場産業である「凍み豆腐」がなくなってしまう恐れがある。ほかの作り手も高齢になり、担い手もいないのが課題である。

更に浅科地区の特産である、五郎兵衛米を多くの方々に食していただくべく加工品等の開発により6次産業化を推進していく。

⇒事業の展望 : 伝統的地場産業である、「凍み豆腐」づくりの継承や担い手の育成、更に五郎兵衛米を使った加工品等の開発等を行い、浅科地区の地域活性化を図る。

⇒具体的な活動内容 : 矢島豆腐、五郎兵衛米等を活用した新規加工食品開発及び販路拡大  
地域農産物等のPR及びSNSによる情報発信

⇒関係団体 : 農事組合法人 矢島いきいき会

## ■報告書作成にあたって

住民票を動かすことが必須な地域おこし協力隊は、住むという本来プライベートな部分も否応なく仕事の一部となる部分がある。よって、協力隊としては勿論、一市民として、働き暮らした内容も記す。

## 第1章 1年目（2016年4月～2017年3月）

## 「豆腐を知る」

## 【1年目のポイント】

- 矢島いきいき会の従業員となり、基本的に週6日間の勤務を行い、矢島いきいき会は黒字になった。
- 市役所と矢島いきいき会と私の三者のそれぞれが考える地域おこしや協力隊制度の理解度に違いがあった。私が想定していたより、矢島いきいき会が協力隊制度について知らなかった。
- 凍み豆腐の製造方法を矢島いきいき会で学んだ。

主な問題点	解決するために行った行動
○週29時間勤務、副業が可能という条件を矢島いきいき会側が理解しておらず、揉める。	→市役所と矢島いきいき会と3者で協議。 →妥協案として週29時間を超える部分は時給800円を支給することになった。
○矢島いきいき会の組合員が代替わりしていて生豆腐に詳しい人が居ない。	→豆腐についての本を読む。豆腐マイスターという資格を取る。松本市や東京都の豆腐屋さんに見学に行くなどを行い、豆腐について詳しくなった。

## 《主な活動内容》

- 市内外のイベントに多数出店し、生豆腐を販売。長野県豆腐品評会にも出店し、受賞する。
- 基本的に仕込み、製造、配達、仕込み、製造、配達と週6日間に渡って、生豆腐製造に携わった。イベント時には週7日間の勤務。その隙間に生豆腐の新規取引先への営業、会計や経理作業などを行った。  
⇒夏場の仕込み作業は21時以降になる場合もあり、時間的な制約があった。
- 約3.5町歩の大豆の栽培に携わった。
- 「豆腐マイスター」資格を取得したり、色々な豆腐屋さんを巡り、勉強した。

## 《その他》

- 居住していた家のお風呂場のシャワーが冬季の寒さで破損。翌日にはトイレも破損。一面水浸しに。
- 農業機械等に乗るため、大型特殊免許やAT限定解除を自費で取得した。
- 11月にストレスにより、腸閉塞の一手手前で緊急入院。物心ついてから始めて救急車に乗った。
- 3月に婚約中の奥さんと結婚し、同居を始めた。

## 第2章 2年目（2017年4月～2018年3月）

### 「凍み豆腐を学ぶ」

#### 【2年目のポイント】

- 天源豆腐店を営む小泉信一さん（当時82才）から凍み豆腐を学んだ。
- 凍み豆腐を広め、伝承するために様々なメディアに出演したり、小学校で授業を行った。
- 継続して矢島いきいき会の従業員として働き、300万円の黒字になった。

主な問題点	解決するために行った行動
○矢島いきいき会のお手伝いさんと化している。	→市役所と矢島いきいき会と三者で協議。
○任期終了後も継続していける目途が立たない。	→3年目は主に独立に向けて活動することになった。

#### 《主な活動内容》

- 生まれながらにして豆腐屋だった天源豆腐店にて基本的に4時～19時頃まで凍み豆腐に携わった。
- 浅科小学校や岸野小学校にて豆腐や凍み豆腐についての授業を行った。
- 1年目と同じく矢島いきいき会の従業員として週6日間勤務し、300万円の黒字となった。

#### 《その他》

- 小泉信一さんにはご飯をご馳走になったり、お祭りに一緒に行ったり、公私ともにお世話になった。
- 小泉信一さんが亡くなってしまった日に娘が生まれた。人生で一番の衝撃だった。久しぶりに泣いた。
- 地域自治の現状を知るために区の交通安全協会役員になって活動をした。
- 都市計画コンサルタントとして、東京で副業を本格的に始めた。

## 第3章 3年目（2018年4月～2019年3月）

### 「信源豆腐店の開業」

#### 【3年目のポイント】

- 空き家を改修し、信源豆腐店を開業した。
- 独立に向けて改めて、経理や会計などを学び、開業準備を進めた。
- TEAM3939という団体を立ち上げ、法人化に向けて準備を進めた。

主な問題点	解決方法
○昔ながらの凍み豆腐製造設備がある古民家を借りたため、今の衛生基準に則って無かった。	→市役所の方にも協力して貰い、半分以上をセルフで改修した。 →時間はかかったが、お金をかけずに保健所の許可を取得した。
○30年以上前から使っていた凍み豆腐製造機械が続々と壊れた。	→凍み豆腐を製造した売上が設備投資に回した。週29時間を超えた部分を来年度への投資に充てられた。

#### 《主な活動内容》

- 地域の方のご協力を得ながら、空き家となっていた凍み豆腐製造小屋付きの古民家の大家さんを探すところから始めて、空き家の改修を経て、保健所の許可を取得した。
- 矢島いきいき会から離れたことによって時間的な制約が無くなり、市内外のイベントに積極的に参加し、人的ネットワークを広げた。
- 新規取引先の営業などを今までの経験を活かしながら行い、信源豆腐店の売り先を確保した。
- 12月中旬から2月下旬までの間に約20,000枚の凍み豆腐を製造し、完売した。

#### 《その他》

- 都市経営プロフェッショナルスクールという社会人学校に通った。
- 任期終了後に働く場所も人的ネットワークのおかげで見つかった。

「人口が減るとい時代への過渡期」

**【ポイント】**

- 地域に資源を「入れて、回して、絞る」。人、物、金といった資源を地域で循環させる必要がある。
- 今が時代の過渡期であることを強く認識し、兎にも角にも時間の使い方を強く意識する必要がある。

主な問題点	目指すべき解決方法
○人口が減る時代に今までのやり方を無理やり続けていて、地域が貧しくなり、破綻しかけている。	→補助金や交付金などの金銭的な補助や、協力隊を始めとした人的な補助を破綻しかけている今までのやり方を継続するために使ってしまったため、自立できる仕組みを作る。
○いつも声をかけている、後で聞いてないと言われても責任が取れない。と、無駄に会議に人が多く、口で理想は語っても行動しない。	→慣例で呼んでいた口だけ出す人や発言も行動もしない人を会議に呼ばなくして、自らの時間やお金を費やし実際に行動を起こす人のみで会議を行う。

**《学んだこと》**

- 人が減り税収が減る時代に行政頼み、補助金頼みの地域活性化は日本各地で破綻しかけている。それに気付いた地域に根付く民間と行政が協力し合い、今ある資源を活かして、自立できる事業を進め始めている。
- 公園や学校といった公共資産を民間が上手く活用して税金を納めたり、古民家を断熱改修して地域外に流れていく石油代を絞ったり、地域を運営していく視点を持って活動していく必要がある。
- 行政が税金を配り、民間が貰う上下関係ではなく、行政と民間が並列で話し合い、規制を取り払い、本当に地域のためになることを進めている。

「自立できる事業を積み重ねる」

**【ポイント】**

- TEAM3939という団体を立ち上げ、法人登記を行い、自立できる事業を行う。
- 持続可能な地域にするため、自立して続けられるような小さな事業を積み重ねていきたい。

想定される主な問題点	解決方法
○今までのやり方を是とする組織や人と対立する。	→既得権益を持っている人とは対立することを覚悟して、とにかく情報を発信し仲間を作る。
○自立できる事業を行おうとすると自分だけ儲けている等の妬みを受ける。	→これからの時代に継続していくためには自立できるだけの利益が必要であることを伝えていく。

**《思ったこと》**

- 補助金や交付金を貰っても、元を正せば自分達が払った税金である。払う額より使う額が多ければ、必然的に増税や借金が必要になり、将来への負担となる。
- 大きいまちづくりは出来ないが小さい日常を彩る自立した事業を積み重ねていきたい。

**《その他》**

- TEAM3939や都市計画コンサルタント、(株)八ヶ岳高原ロッジでのアルバイトなど、複数の仕事を掛け持ちする働き方にチャレンジする。楽しみだけど、生活費がちょっと怖い。
- 協力隊が終わっても新しいスタートを切り続けたい。娘に誇れる仕事をしよう。